



キッチンから、笑顔をつくろう

株主の皆さまへ

第59期 報告書

2011年4月1日から 2012年3月31日まで

株主の皆さまへ

皆さまからのご支援とご支持により、
震災から着実に復旧を進め、
前期実績を上回る売上を
上げることができました。



代表取締役社長

井上 強一

クリナップの企業理念

クリナップは、創業60周年(2009年10月)を契機に、『第二の創業』に向けた新たな一歩を踏み出しております。

■ 新企業理念

創業者理念「五心」

- 一、創業の心
- 一、親愛の心
- 一、創意の心
- 一、技術の心
- 一、使命の心

創業者理念 「五心」

企業理念 「家族の笑顔を作ります」

行動理念

1. 私たちは、心豊かな食・住文化を作ります
2. 私たちは、公正で誠実な企業活動を貫きます
3. 私たちは、自らの家族に誇れる企業を作ります

新ブランドステートメント キッチンから、笑顔をつくろう

事業としては「キッチンダントツNo.1」をめざす
お客様に対しては「キッチンの代名詞」としての評判をつくる

活動方針

上記三つの理念(創業者理念・企業理念・行動理念)に根ざした強い人材・組織・事業を育成することにより、経営を強化/高度化し、“The Kitchen Company”を確立します。

2012年3月期 連結決算ハイライト

- 売上高は、当初予想を上回るとともに、前年同期比2.5%増となりました。
- 営業利益は、売上原価と販管費がともに増加したことから、前年同期比17.6%減となりました。
- 当期純利益は、震災による損失等の特別損失が減少、繰延税金資産の増加もあり、前年同期比738.5%の大幅増益となりました。



クリナップ復旧・復興の象徴となった「新クリンレディ」を核に、積極的な営業活動を展開した結果、増収となったことは、当社全社員の大きな自信と誇りになっております。

前期末に発生した東日本大震災は、いわき市に集中していた当社の工場に被害を及ぼしました。特にライフラインの寸断により、主要商品の受注／生産が完全にストップし、当社は、創業以来初めての大きな危機に直面しました。

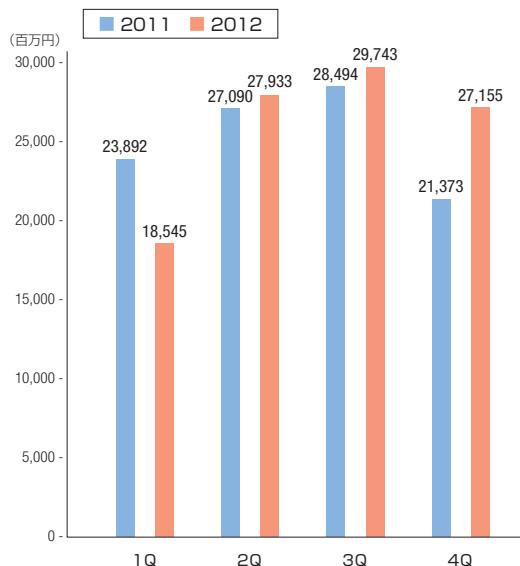
この危機に対して、全社員が一つになり、復旧に向けた取り組みを全力で行いました。多くの皆さまからのご支援をいただいたこともあり、5月末には主要商品の受注／生産の回復に漕ぎつけることができました。また、発売延期となっていた「新クリンレディ」を6月1日より発売開始し、広告宣伝、セールスプロモーション、営業活動が一体となった販売戦略を展開いたしました。その結果、強い商品力も手

伝って、「新クリンレディ」は多くの支持を得て受注量が急伸、これが起爆剤となって当社の売上は急速に回復いたしました。

当期(2012年3月期)の連結業績が2期連続の増収を達成したことは、まさに全社員が一丸となって復旧活動とその後の生産・販売活動に取り組んだ成果であり、これは当社全社員の大きな自信と誇りになっております。

なお、生産体制につきましては、このたびの震災での経験を踏まえ、いわき事業所に一極集中した体制を見直し、クリナップ岡山工業(株)でもシステムキッチンの自己完結生産を可能とした、東西2拠点体制を推進してまいります。

■ 連結売上高の四半期別推移



自己完結生産が可能な東西2拠点体制

クリナップ岡山工業(株)にてシステムキッチンの自己完結生産を可能とし、バランスのとれた東西2拠点体制を構築



株主の皆さまへ

今後も“**The Kitchen Company**”の実現を目指し、「商品力」、「営業力」、「ブランド力」、そして「海外事業力」の4つのパワーを強化してまいります。

当社は、2009年10月の創業60周年を「第二の創業」と位置づけ、キッチンの専門メーカーであるという認識のもと、“The Kitchen Company”の実現を目指す取り組みを開始いたしました。そして、消費者目線からのモノづくりやコミュニケーションに徹していくことを企業の基本的なあり方と捉え、「キッチンから、笑顔をつくろう」をブランドステートメントとして宣言いたしました。

この取り組みは現在も続いておりますが、当社は当期において震災後の復旧活動を通じて数多くの貴重な経験をいたしました。その結果、当社は、“The Kitchen Company”の実現に向けた新たな道筋として、『個人・家族・社会を大切に日本を中心にアジアへ展開する企業』という将来像を展望することいたしました。

こうした展望のもと、当社は、これまで追求してきた「商品力」、「営業力」、「ブランド力」に、新たに「海外事業力」を加えて、今後4つのパワーの強化を図ってまいります。

「商品力」については、前述のとおり、当期はシステムキッチンにおいてクリンレディのフルモデルチェンジを行うとともに、システムバスルームにおいても好評の「アクリアバス」のモデルチェンジを行うなど、商品の魅力をさらに高めておりますが、今後もお客様のニーズを捉えた商品開発を推し進めてまいります。

「営業力」については、リフォーム需要の取り込みを目指した取り組みを展開しております。全国の販売店／サブユーザーに対しては会員登録制組織「水まわり工房」への加入を促進し、当期において2,500店を突破いたしました。2013年3月期は2,800店を目指して会員の拡大を図ってまいります。また、全国のエンドユーザーに対しては、「水まわり工房」と当社の全国ショールームを活用し、年間2,000回を超えるリフォームフェアの開催などにより需要の顕在化に努めております。

「ブランド力」については、「キッチンから笑顔をつくる料理アカデミー」など、クリナップの企業理念や姿勢を訴えるさまざまな取り組みを行っております。

新たな施策としてスタートさせる「海外事業力」については、アジアへ向けた海外事業の本格化に着手し、主に中国、ベトナム、台湾での事業を推進してまいります。

中国（遼寧省瀋陽市）

可麗必斯家具（瀋陽）有限公司を設立し、厨房・家具等の金属・樹脂部品を製造販売予定

台湾（台北）

既に協力関係にある代理店との連携を一層強化するために、現地事務所を開設

ベトナム（ハノイ）

新たに現地の販売代理店と連携して、ショールームを開設

以上のような取り組みを推し進め、当社は2年後の65周年をめぐりに、「第二の創業」にふさわしい、より強固な事業基盤を築き上げたいと考えております。

株主の皆さまには、引き続き当社の経営にご支援をお願い申し上げます。

■ アジアにおける展開



特集:「新クリンレディ」の魅力



「The Kitchen Company」としての積み重ねを集大成した 「新クリンレディ」が多くの支持と高い評価を獲得しました。

2011年6月1日より発売を開始した「新クリンレディ」は、価格は据え置いたまま、ステンレス素材の特長を極限まで活かしたクリナップの自信作です。発売以来、非常に多くの受注をいただき、震災後の当社売上高の回復と市場シェア拡大に大きく寄与しました。

これは、「新クリンレディ」を魅力的な商品として皆さまに提供できたからこそであると自負しておりますが、その魅力を改めてお伝えする方法として、今回は、各方面からいただいたアワード(表彰)をご紹介します。



All About「キッチンオブザイヤー2011」で「グランプリ・大賞」を受賞

「キッチンオブザイヤー」は、生活総合情報サイト「All About」で情報提供する専門家(ガイド)が、その年に発表されたキッチンから優秀な製品をプロの目で評価するもの。今年で9年目。

選考に携わったAll About「キッチン」ガイドの黒田秀雄氏は受賞理由について、「シンプルで端正なキッチンデザインは、高い好感が持たれ、幅木収納などの引出し収納の密度も高機能化された。また、クロムやニッケルなどのレアメタルを大幅に削減した新素材ステンレス「NSSC® FW1」で構成したキャビネットは、接着剤の使用をほとんどなくし、重量は50%減と半減し、リサイクル可能だけでなく、運送搬入

時の環境負荷を低減する画期的な技術を導入している。これからのキッチンデザインの方向を示す指針を示した意義はグランプリに値する。」と述べられています。また、東日本大震災の被災地である福島県いわき市に生産拠点を持つクリナップが、震災からいち早く復旧し、新商品「クリンレディ」を6月に発売したことも高く評価されました。

「ステンレス協会賞」の優秀賞を受賞

「ステンレス協会賞」は、ステンレス協会が1993年より実施し、ステンレスの新規用途開発・普及・社会環境との調和等に貢献した製品を、隔年で表彰する歴史ある賞。

受賞理由は、これまで高級品クラスに限られていたステンレスキャビネットを中級品クラスに採用し、市場のボリュームゾーンを拡大したこと、地球環境のための省資源化や、輸送の軽量化に加え、ステンレスならではのリサイクル性を向上させたことでした。

今回の開発にあたり、キャビネット構造の全面的な見直しを行い、世界初のステンレス素材「NSSC® FW1」* (クロムやニッケルといったレアメタルの含有量を大幅に削減した世界初のステンレス素材) の採用や製造コストの削減など、クリナップの姿勢が評価されました。

* 「新クリンレディ」で採用している、新日鐵住金ステンレス株式会社が世界で初めて開発した新ステンレス素材「NSSC® FW (フォワード) シリーズ」は、「第4回ものづくり日本大賞」で内閣総理大臣賞を受賞しました。「NSSC® FW1」は、一般的なステンレス (SUS304) と比べて、レアメタル (クロムやニッケル) を約46%削減した世界初の新しい素材です。クリナップは新日鐵住金ステンレス株式会社と共同で用途開発を行い、「新クリンレディ」のキャビネットとして採用いたしました。

主なトピックス

新商品

「清掃性」と「デザイン性」を強化したシステムバスルーム「アクリアバス」を3月1日より受注開始

システムバスルーム「アクリアバス」を5年ぶりにモデルチェンジし、2012年3月1日より受注開始いたしました。新「アクリアバス」は、ご好評をいただいている業界トップクラスの「保温性」や「安全性」に加えて、お客様のニーズが高い「清掃性」と「デザイン性」を高めました。

清掃性

カビの根が入り込みにくい新しい目地材「クリンパッキン」や、排水口のお手入れが楽になるステンレス製の「クリンヘアキャッチャー」を標準装備することにより、清掃性が向上

デザイン性

クリナップ独自の透明感と深みのある人工大理石素材「アクリストンクオーツ」を、浴槽や洗面器置きカウンターに展開（8色のカラーバリエーションから選択可能）



▲清掃性を向上させる「クリンヘアキャッチャー」



▲アクリストンクオーツを採用し「デザイン性」を向上

「食・住」文化コミュニケーション

寄付講座「キッチンから笑顔をつくる料理アカデミー 2011」の開講とこの度、Web版の「キッチンから笑顔をつくる料理アカデミー “Web分校”」を開設

2009年から毎年実施している寄付講座「キッチンから笑顔をつくる料理アカデミー」を今期も開講いたしました。本料理アカデミーは、クリナップの企業理念「家族の笑顔を創ります」にもとづき、食と住に深く関わる当社として、食の大切さや役割を見つめ直すことが「個人・家族・社会の笑顔」につながると考え、継続して実施しております。3回目となる今年は、200名を超える参加希望者の中から抽選で26名の受講者を決定。また、より多くのご家族に笑顔になっていただきたいとの思いから、これまでの内容を“Web分校”として当社ウェブサイトに掲載することにいたしました。クリックするだけで誰でも受講可能です。多くの皆さまからのアクセスをお待ちしております。



第3回
講座



講師 龍崎 英子 先生
(千葉県郷土料理研究会主宰)



NEW

“Web分校”トップページ
<http://cleanup.jp/kitchen-academy/>
 (クリックするだけで誰でも受講可能)

CSR 関連

日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2011」に
新クリンレディを初出展

さまざまな企業・団体が集まり、「持続可能な社会の実現」に向けた情報発信の場と位置づけられた、日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2011」(会場：東京ビッグサイト、会期：12月15日から3日間)に新クリンレディを初出展し、環境に配慮した数々の技術を一堂に展示いたしました。ステンレスキャビネットと木製キャビネットの重さの違いが実感できる重さ体験コーナーを設け、また、「洗エールレンジフード」、「美・サイレントシンク」など独自のエコ技術をご紹介します。



今回、当社キャラクター「クリ夫」もステージに初登場しました。



▲新クリンレディ



▲会場風景

復興祈念「いわきサンシャインマラソン」に特別協賛
女子優勝者にシステムキッチンを贈呈

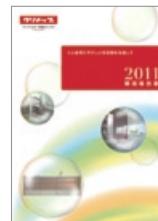
当社が特別協賛した復興祈念「いわきサンシャインマラソン」が、2012年2月12日、福島県いわき市にて開催されました。今年で3回目となる当大会は、“日本の復興を「いわき」から”をかかげた復興祈念大会として、午前9時より各種目(2Km、5Km、10Km、フルマラソン)が順次スタート(参加者：合計約7,800人)。スターターは渡辺敬夫いわき市長や有森裕子さん等が務められ、また、ゲストランナーとして増田明美さんや柏原竜二さんが軽やかな走りを見せ、大会に華を添えてくださいました。また、フルマラソン女子の部で優勝した青森県の佐藤由貴選手には、賞品としてシステムキッチン「クリンレディ」が贈呈されました。

当社は今後も、いわきから笑顔が発信できるよう、復興を待つ皆さまに心からのエールを送ってまいります。

▲優勝賞品はシステムキッチン「クリンレディ」
(フルマラソン女子の部優勝：佐藤由貴選手)

環境問題への取り組みをまとめた「2011 環境報告書」を発行

「2011 環境報告書」では、ステンレスでエコ性能を追究した究極のシステムキッチン「クリンレディ」の開発秘話や、長寿命と省資源を実現する「20年サポートプログラム」の意図と特徴など、“家族の笑顔を創る”「ザ・キッチンカンパニー」としての使命を追求する、クリナップの環境問題への取り組みを紹介しております。また、ダイジェスト版「econup / エコナップ」を全国ショールームおよび営業所にて配布しております。



◀環境報告書

連結ハイライト情報／連結部門別情報

■ 連結財務ハイライト

(百万円)

	第57期 2010年3月期	第58期 2011年3月期	第59期 2012年3月期
売上高	98,843	100,851	103,377
営業利益	1,840	2,876	2,370
経常利益	1,679	2,590	2,083
当期純利益	2,104	257	2,155
総資産	76,289	75,146	84,810
純資産	52,459	51,942	53,797

■ 部門別売上高 (連結)

(百万円)

	第57期 2010年3月期	第58期 2011年3月期	第59期 2012年3月期
厨房部門	77,185	78,501	79,558
浴槽・洗面部門	17,505	17,885	19,050
その他	4,152	4,464	4,768
合計	98,843	100,851	103,377

(百万円)

120,000 -

100,000 -

80,000 -

60,000 -

40,000 -

20,000 -

0 -

第57期

第58期

第59期

■ 厨房部門 ■ 浴槽・洗面部門 ■ その他



厨房部門の主な商品

高級品クラスのシステムキッチン「S. S.」シリーズ、中・高級品クラスの「クリンレディ」シリーズ、普及品クラスの「ラクエラ」、マンション向けシステムキッチン、セクショナルキッチン等で構成されております。

浴槽・洗面部門の主な商品

中・高級品クラスのシステムバスルーム「アクリアバス」、普及品クラスの「hairo (はいろ)」等の浴槽関連商品と、洗面化粧台等で構成されております。



第59期の営業概況

市場環境

当連結会計年度における日本経済は、東日本大震災による経済活動の停滞から回復の兆しがみられ、個人消費や生産に持ち直しの動きがあったものの、欧州金融不安による継続的な円高や株価の低迷等、依然として厳しい状況で推移いたしました。

住宅設備機器業界においては、住宅優遇税制などの政策効果や震災復興の特需などにより新設住宅着工戸数は一時伸びをみせましたが、2011年9月より5カ月連続で前年同月比マイナスになるなど、先行きが不透明な状況となっております。

業績・成果

このような中、当社グループは、震災からの復旧活動を着実に進め、2011年8月には全シリーズ商品の受注、生産が可能となりました。また、2011年6月に『ステンレスエコキャビネット』を標準装備してフルモデルチェンジしたシステムキッチン「クリンレディ」や、2012年3月に清掃性とデザイン性を高めてフルモデルチェンジしたシステムバスルーム「アクリアバス」等、付加価値の高い商品を市場に提供しました。

販売面では、全国102カ所のショールームを活用した新商品フェアを実施し、当社の会員登録制組織「水まわり工房」加盟店との連携も深めながら、需要の喚

起と売上の拡大に努めました。

生産面では、引き続きVE活動(*)を推進し、原価低減に努めました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は前年同期比2.5%増の1,033億77百万円となりました。利益面では営業利益は同17.6%減の23億70百万円、経常利益は同19.5%減の20億83百万円と減益となりましたが、当期純利益は災害による損失等の特別損失が減少、繰延税金資産の増加もあり、同738.5%増の21億55百万円と大幅増益になりました。

*VE活動：VE (Value Engineering) は、商品・サービスの期待される機能・価格を最低コストで確実に達成するための技術であり、VE活動は生産の現場におけるVE実現に向けた取り組み。

第59期の部門別の状況

部門別にみますと、厨房部門では、システムキッチン「S.S.」は数量、金額とも大幅減、「クリンレディ」は数量、金額とも大幅増、「ラクエラ」は数量、金額とも増となりました。この結果、厨房部門の売上高は前年同期比1.3%増の795億58百万円となりました。

浴槽・洗面部門では、システムバスルーム「アクリ

アバス」は数量、金額とも減、「hairo (はいろ)」は数量、金額とも大幅増、洗面化粧台は数量、金額とも横ばいとなりました。この結果、浴槽・洗面部門の売上高は前年同期比6.5%増の190億50百万円となりました。

連結財務諸表

■ 連結貸借対照表の要旨

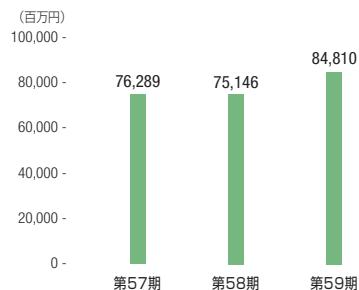
流動資産 流動資産は前期末比88億1百万円増加し586億61百万円となりました。これは主に、前期末において震災の影響により減少した受取手形及び売掛金が81億45百万円、有価証券が7億円増加したこと等によります。

固定資産 固定資産は前期末比8億62百万円増加し261億49百万円となりました。これは、生産設備の増強、事業用不動産の購入等により有形固定資産が2億71百万円増加、繰延税金資産の計上等により投資その他の資産が8億96百万円増加した一方、減価償却等により無形固定資産が3億5百万円減少したことによります。

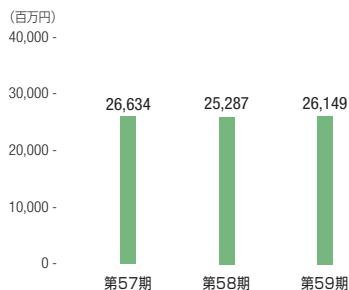
資産合計 総資産は前期末比96億64百万円増加し848億10百万円となりました。

	第58期 2011年3月31日現在	第59期 2012年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	49,859	58,661
現金及び預金	23,786	23,735
受取手形及び売掛金	19,995	28,141
その他	6,110	6,829
貸倒引当金	△ 32	△ 44
固定資産	25,287	26,149
有形固定資産	18,040	18,312
建物及び構築物	8,106	8,020
土地	6,338	6,708
その他	3,595	3,582
無形固定資産	1,990	1,685
投資その他の資産	5,255	6,152
投資有価証券	2,418	2,658
その他	2,926	3,592
貸倒引当金	△ 89	△ 98
資産合計	75,146	84,810

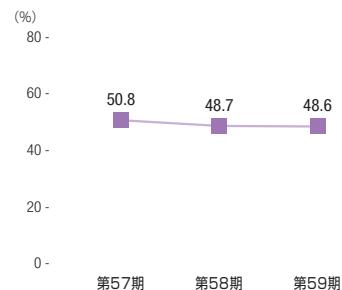
■ 資産合計



■ 固定資産



■ 固定比率





(百万円)

	第58期 2011年3月31日現在	第59期 2012年3月31日現在
(負債の部)		
流動負債	16,994	23,319
買掛金	3,782	6,454
その他	13,212	16,865
固定負債	6,209	7,693
長期借入金	1,583	3,168
退職給付引当金	1,784	1,780
役員退職慰労引当金	424	424
その他	2,416	2,319
負債合計	23,203	31,013
(純資産の部)		
株主資本	51,848	53,537
資本金	13,267	13,267
資本剰余金	12,351	12,351
利益剰余金	26,453	28,143
自己株式	△ 224	△ 224
その他の包括利益累計額	94	259
その他有価証券評価差額金	105	270
為替換算調整勘定	△ 10	△ 10
純資産合計	51,942	53,797
負債純資産合計	75,146	84,810

流動負債 流動負債は前期末比63億25百万円増加し233億19百万円となりました。これは主に、買掛金が26億71百万円、1年内返済予定の長期借入金が16億11百万円、信託一括支払いが増加したこと等により未払金が22億85百万円増加したこと等によります。

固定負債 固定負債は前期末比14億83百万円増加し76億93百万円となりました。これは主に、長期借入金が15億84百万円増加したこと等によります。

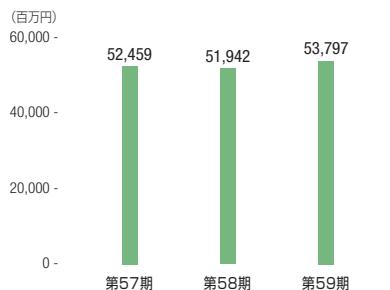
純資産合計 純資産合計は前期末比18億54百万円増加し537億97百万円となりました。これは主に、当期純利益21億55百万円、その他有価証券評価差額金の増加1億64百万円、配当金の支払い4億65百万円等によります。この結果、自己資本比率は、前期末の69.1%から63.4%になりました。

有利子負債

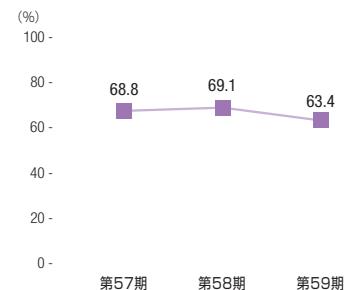


(※) 有利子負債は短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金、リース債務の合計。

純資産合計



自己資本比率



連結財務諸表

(百万円)

■ 連結損益計算書及び連結包括利益計算書の要旨

	第58期 2010年4月 1日～ 2011年3月31日	第59期 2011年4月 1日～ 2012年3月31日
売上高	100,851	103,377
売上原価	66,736	69,519
売上総利益	34,114	33,858
販売費及び一般管理費	31,237	31,488
営業利益	2,876	2,370
営業外収益	508	473
営業外費用	794	760
経常利益	2,590	2,083
特別利益	43	187
特別損失	2,359	543
税金等調整前当期純利益	274	1,727
法人税等	17	△ 427
少数株主損益調整前当期純利益	257	2,155
当期純利益	257	2,155
(連結包括利益計算書)		
少数株主損益調整前当期純利益	257	2,155
その他の包括利益	△ 111	165
包括利益	145	2,320

売上高 上期には、震災による受注停止の影響があったものの厨房部門、浴槽・洗面部門ともに増収となり、売上高は前年同期比2.5%増の1,033億77百万円となりました。

売上原価 震災による受注停止の影響、売上を牽引したクリンレディが価格据え置きでステルス化したことなどから、売上原価率が前年同期比1.1ポイント上昇し67.3%となりました。

販管費 スポットTVCMの実施、増収に伴う物流費の増加などがあった一方で、経費増加の抑制に努めたことで一般管理費が減少し、販管費全体では前年同期比2億50百万円増加しましたが、販管費率は同0.5ポイント低下し30.5%となりました。

営業利益 増収となったものの、売上原価率が上昇したことや、販管費が増加したことにより営業利益は前年同期比17.6%減の23億70百万円となりました。

当期純利益 災害による損失等の特別損失が減少、繰延税金資産の増加もあり、当期純利益は前年同期比738.5%増の21億55百万円となりました。

(連結損益計算書)

売上高	100,851	103,377
売上原価	66,736	69,519
売上総利益	34,114	33,858
販売費及び一般管理費	31,237	31,488
営業利益	2,876	2,370
営業外収益	508	473
営業外費用	794	760
経常利益	2,590	2,083
特別利益	43	187
特別損失	2,359	543
税金等調整前当期純利益	274	1,727
法人税等	17	△ 427
少数株主損益調整前当期純利益	257	2,155
当期純利益	257	2,155

(連結包括利益計算書)

少数株主損益調整前当期純利益	257	2,155
その他の包括利益	△ 111	165
包括利益	145	2,320

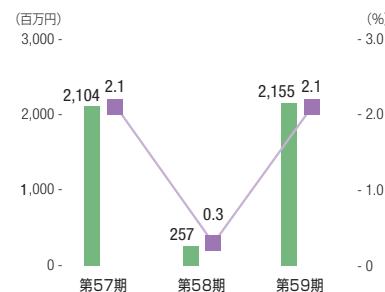
■ 売上高



■ 営業利益・営業利益率



■ 当期純利益・当期純利益率





■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(百万円)

	第58期 2010年4月1日～ 2011年3月31日	第59期 2011年4月1日～ 2012年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,753	△ 184
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,214	△ 1,967
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,611	2,601
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 10	0
現金及び現金同等物の増減額	3,917	449
現金及び現金同等物の期首残高	21,881	25,798
現金及び現金同等物の期末残高	25,798	26,248

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果使用した資金は1億84百万円（前年同期は67億53百万円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益が17億27百万円、減価償却費が28億97百万円で、仕入債務の増加26億71百万円、未払金の増加21億24百万円があった一方、売上債権の増加が82億83百万円あったこと等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は19億67百万円（前年同期比62.1%増）となりました。これは主に、生産設備の増設及び改修、事業用不動産の取得等有形固定資産の取得に伴う支出が17億72百万円、情報システム構築に伴う支出が3億47百万円、投資有価証券の取得による支出が2億5百万円あった一方、有形固定資産の売却による収入が3億49百万円あったこと等によりです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果得られた資金は26億1百万円（前年同期は16億11百万円の使用）となりました。これは主に、長期借入金による資金の調達50億円あった一方、長期借入金の約定返済が18億4百万円、配当金の支払いが4億66百万円あったこと等によるものです。

現金及び現金同等物の期末残高

これらにより、現金及び現金同等物の期末残高は、前期末に比べ4億49百万円増加して262億48百万円となりました。

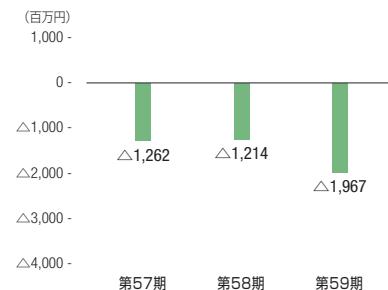
■ 現金及び現金同等物の期末残高



■ 営業活動によるキャッシュ・フロー



■ 投資活動によるキャッシュ・フロー



株式関連情報 (2012年3月31日現在)

■ 剰余金の配当について

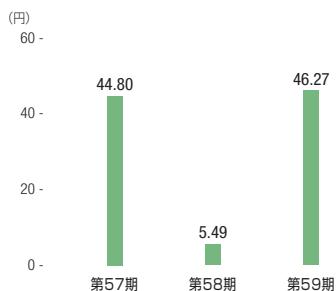
当社は、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営方針の一つと考えております。長期的な安定と成長を実現することにより最大の利益を上げ、安定的な配当を長期的に継続していくことを基本方針としております。

内部留保資金につきましては、新製品生産設備、営業拠点整備、情

報基盤整備等の設備投資に充て、効率的な経営による収益力の向上と資本効率の向上に努めてまいります。

なお、期末配当金につきましては、1株当たり5円とし、1株当たり年間10円の普通配当を実施させていただきました。

■ 1株当たり純利益



■ 1株当たり純資産額

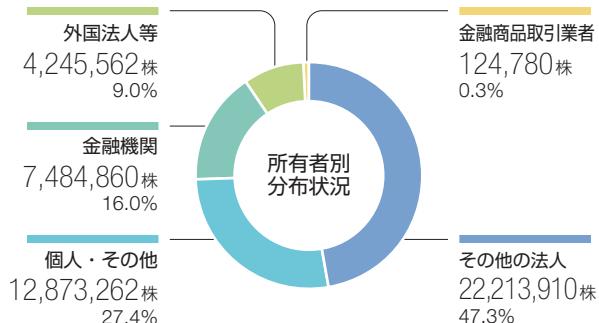


■ 1株当たり配当金



■ 株式の状況

発行可能株式総数	130,000,000 株
発行済株式総数	46,942,374 株
株主数	4,797 名



■ 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社井上	12,476	26.7
株式会社タカヤス	6,829	14.6
クリナップ社員持株会	2,267	4.8
クリナップ真栄会	1,809	3.8
クリナップ共進会	1,418	3.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,400	3.0
ザバンクオブニューヨーク・リージャスデックアカウント	1,243	2.6
井上 けよ	1,133	2.4
株式会社三菱東京UFJ銀行	757	1.6
三菱UFJ信託銀行株式会社	693	1.4

注) 持株比率は自己株式 (350,650株) を控除して計算しております。

会社情報 (2012年3月31日現在)

■ 会社概要

商号	クリナップ株式会社 Cleanup Corporation
本社所在地	〒116-8587 東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
電話	03-3894-4771(大代表)
創業	1949年10月5日
会社設立	1954年10月5日
上場	1990年2月6日 東証2部上場 1991年9月2日 東証1部指定
資本金	132億6,734万円
主要営業品目	厨房機器、浴槽機器、洗面機器、その他
社員数	連結：3,286名 / 単体：2,673名
主な事業所	支社：国内3カ所 支店：国内5カ所 営業所：国内121カ所 海外：香港支店、北京事務所 工場：四倉、鹿島システム、鹿島、湯本、クレート (いずれも福島県いわき市)

■ 役員 (2012年6月27日現在)

代表取締役社長	井上 強 一	常勤監査役	山根 康 正
取締役	加藤 亨 一	常勤監査役	山本 幸 男
取締役	小島 輝 夫	監査役	新谷 謙 一
取締役	小松 裕 恒	監査役	有賀 文 宣
取締役	鈴木 章		
取締役	松浦 昌 孝		
取締役	佐藤 茂		
取締役	屋代 光 昭		
取締役相談役	高嶋 信		

注) 監査役 新谷謙一及び有賀文宣の両氏は、社外監査役であります。

■ ショールーム (全国102カ所)

北海道支店ブロック	4カ所	静岡支店ブロック	4カ所
東北支店ブロック	13カ所	中部支店ブロック	13カ所
東京支店ブロック	24カ所	関西支店ブロック	26カ所
上信越支店ブロック	7カ所	九州支店ブロック	11カ所

お近くのショールームをホームページでご確認ください。

<http://cleanup.jp/>

※株主・投資家の皆さまに向けたIR情報(決算情報等)を掲載しております。
また、「商品情報」をはじめ、ホットな「新着情報」、さらに「生活情報」なども掲載しております。



■ 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
公告方法	電子公告により、下記当社ホームページに掲載いたします。なお、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 電子公告掲載 URL http://cleanup.jp/
単元株式数	100株

【株式に関するお手続きについて】

■ 証券会社等の口座に記録された株式

株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等(口座管理機関)にお問合せ下さい。

■ 特別口座に記録された株式

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せ下さい。

■ 未受領の配当金

未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せ下さい。

【株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関】

三菱UFJ信託銀行株式会社

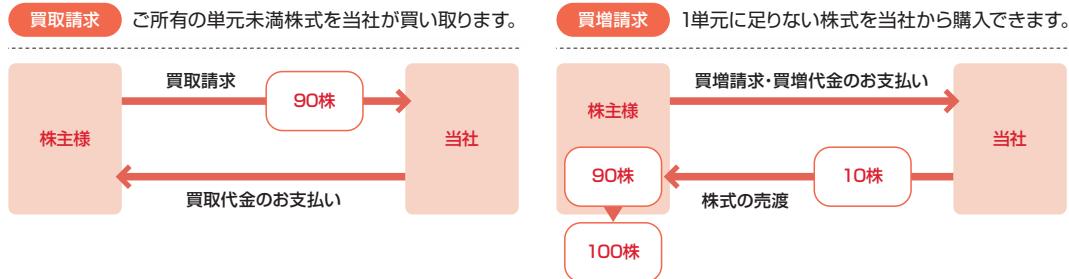
【同連絡先】

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)

■ 単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式につきましては市場で売買することはできませんが、口座管理機関を通じ、当社に対して買取請求または買増請求をすることができます。お手続きの方法等につきましては、口座管理機関(証券会社等または三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部)にお問合せ下さい。

(例) 株主様が単元未満株式を90株ご所有の場合



■ 特別口座をご利用の株主様へ

特別口座は証券会社等に開設された口座と異なり、自由な売買ができる口座ではありません。株式の売買等を円滑に実施するため、証券会社等への口座開設及び特別口座からの振替手続きをお勧めいたします。お手続きの方法等につきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部までお問合せ下さい。

クリナップ®株式会社

東京都荒川区西日暮里6-22-22 〒116-8587 TEL 03(3894)4771

